

「危機管理特論」

水曜 1 限

(担当)

防災研究所 教授 林 春男
防災研究所 助教 鈴木進吾
防災研究所 准教授 牧紀男

(授業のテーマと目的)

わが国でも自然災害の発生が頻発化と激化の傾向を示すだけでなく、予想外のさまざまな原因による危機が増発しており行政組織さらには民間組織において危機管理に対する関心が高まっている。危機管理とは「プロセス」であり、危機を管理する水準を継続的に向上させる試みである。わが国の危機管理体制の現状を見ると、災害対策基本法にもとづいて自然災害を対象として整備されている防災体制がもっとも包括的である。本講座ではこうした現状をふまえて、自然災害への対応を基礎としながらどのような原因による危機にも一元的に対応できるわが国の社会風土に適した危機管理体制について考える。危機管理の目標は組織における事業継続である。この講義では、リスク評価→戦略計画の策定→標準的な危機対応システムの構築→研修・訓練というプロセスを連続して回す事による組織の事業継続 (Business Continuity Management) を可能にする危機管理の方法を習得する。

(授業計画と内容)

- 4月14日 危機管理とは (林、牧)
- 4月21日 組織の事業継続 (牧1)
- 4月28日 危機管理対応の実務を知る1 (武田先生)
- 5月12日 リスクの同定 (牧2)
- 5月19日 リスクの評価 (鈴木)
- 5月26日 リスクの定量化 (鈴木)
- 6月2日 参画型戦略計画 (牧3)
- 6月9日 危機管理対応の実務を知る2 (金芳先生)
- 6月16日 ワークショップを利用する戦略計画策定プロセス (牧4)
- 6月23日 一元的な危機対応過程 (林3)
- 6月30日 危機対応のための組織編成と組織運営 (牧5)
- 7月7日 危機対応のための情報処理 (牧6)
- 7月14日 危機管理対応の実務を知る3 (指田先生)
- 7月21日 人材育成のための研修・訓練法 (林)
- 7月28日 レポート試験

■評価

各回にレポートを課す。その回答状況と期末レポートの内容から総合的に評価する。また、最終回の授業の際に行うレポート試験の結果により行う。

○各回のレポート課題

「授業を聞いて自分にとって発見だったことを3つ、もっと説明してほしいことを1つあげ、その理由を説明しなさい。

- ・提出様式：以下の要領に従って、メールで回答する
- 1. address: disaster.reporti2@drs.dpri.kyoto-u.ac.jp
- 2. subject: 「危機管理レポートX 月X 日 学籍番号 氏名」と明記する
- 3. 添付書類不可
- ・提出期限：翌週火曜日まで

■教科書

林 春男・牧 紀男・田村圭子・井ノ口宗成、組織の危機管理入門 リスクにどう立ち向えばいいのか、丸善(株)出版事業部、2008

■オフィスアワー

①電子メールによる質問を受け付けています。(disaster.reporti2@drs.dpri.kyoto-u.ac.jp)

□参考書

1. トム・デマルコ, ティモシー・リスター: 熊とワルツを, 日経B P社, 2003.
2. James R. Evans, David L. Olson: リスク分析・シミュレーション入門 - Crystal Ballを利用したビジネスプランニングの実際 -, 株式会社構造計画研究所, 1999.
3. Project Management Institute: A Guide to the Project Management Body of Knowledge 2000 Edition, Project Management Institute, Inc, 2000.
4. R. Max Wideman: Risk Management - A guide to Managing Project Risk & Opportunities -, Project Management Institute, Inc, 2000.
5. メモリアルコンファレンス・イン神戸実行委員会編 (2005) 「12歳からの被災者学」NHK出版
6. 林 春男 (2003) 「いのちを守る地震防災学」岩波書店
7. 林 春男 (2001) 「率先市民主義」晃洋書房